

子どもたちの笑顔が 次に進む力に

釜石保育園

幼保一体型「釜石認定こども園」を

釜石市・大槌町管内の保育園では全壊4施設、半壊2施設が被害を受けました。釜石市の中心部にあった釜石保育園は大きな被害を受けましたが、園児80名と保育士20名は迅速に避難し、一人の犠牲者も出ませんでした。

同園はその後、いち早く内陸部(甲子町)にある幼稚園を借りて保育を再開(4月1日)。事務室となるログハウスは増築プロジェクトが支援し、給食室はボランティアが園舎の一部を改造して完成させました。震災からまもなく2年。一時は地方へ移転した家族もあって園児数は減

少ししましたが、現在は大槌町や近隣から通う新規園児もあり、今年度のスタート時は震災前を上回りました。

藤原けいと園長は「子どもたちがいるからこそ、先に進む力が生まれます。子どもが元気でいると働く親ごさんも元気になります」と、園内行事は震災前と何ひとつ変えていません。「沈んだ保育園にしないこと、元気な保育園にすることが、私たちの役割であり責任なんです」と力強く話しています。震災を一緒に乗り越えた職員と心をひとつにし、親ごさんや地域の方々とのコミュニケーションも深まっている様子です。

園児たちも「ちびっこ虎舞」で浜っ



園の恒例行事「節分のみままき」



元気を発信する「ちびっこ虎舞」

社会福祉法人愛泉会 釜石保育園

市内中心部の園舎は津波で浸水。2階事務室は無事でした。現在は中心部から西へ約8[※]先の旧釜石南幼稚園で保育を再開しています。

釜石保育園(本園)は園児76名、職員19名。平田町の平田保育園(分園)は定員30名。大町子育て支援センター(職員2名)も開設しています。

釜石保育園/釜石市甲子町10-630-1

☎0193-25-1180

平田分園/釜石市大字平田2-25-142

☎0193-36-1171

まちを明るくしなければ

藤原けいと園長



震災後は「どうしよう」からのスタートでした。多くのご支援のおかげで通常通りの保育活動を進め

るまでになりました。口にこそ出ませんが、一緒に苦しみや悲しみを乗り越えた職員同士、そして子どもたちとも心がつながりあっています。

復興期にある現在、市内中心部には保育園はありません。1日も早く戻り、まちを明るくしなければと思っています。

釜石の子どもたちのために

金子健一

常務理事・事務局長



震災前の保育実践を取り戻しつつあります。幼保一体化への移行予定に伴い、

法人として「釜石認定こども園」の開設を申請中です。

これからも市内の保育園や幼稚園と手を携え、釜石の子どもたちのために一歩一歩先を進みたいと考えています。

の開設を決め、現在申請中です。

市の復興住宅計画(40戸)の中に位置づけられた復興再建園舎のイメージは、敷地面積が約2,700平方メートル、平屋建ての建物は約800平方メートル、園庭は900平方メートル。場所は天神町(旧第一中学校)仮設住宅の一角です。

復興住宅とこども園が一緒になった複合型ゾーンの完成は、順調にいくと平成26年4月。被災地では初めての取り組みです。

鵜住居児童館

元気を発信する「コンテナハウス」

釜石市では3つの児童館(鵜住居、唐丹、箱崎)が流出しました。うち鵜住居児童館は昨年3月に鵜住居小学校の仮設校舎完成とタイミングを合わせて隣地に移転。唐丹児童館は昔使っていた施設を修理し、また、Tポイントカードの支援で建てられた「みんなの唐丹児童館」を学童クラブ

が利用しています。箱崎児童館は様々な事情から廃園を余儀なくされました。

釜石市社協が運営する児童厚生施設「鵜住居児童館」は、子どもたちの遊び場、居場所の再開を願う住民と、さらに要望に応えたいという「財団法人児童健全育成推進財団」及び「マ

笑顔を保やさない児童館に



菊池 久

鷺住居児童館館長・施設長
児童館にいたすべ
ての子どもは、津
波を免れて助かり
ました。

甚大な被害を受けた鷺住居地区は、
多くの方々が仮設住宅での生活を強い
られています。こうした状況だからこ
そ、働く親ごさんの気持ちに伝えなけ
ればと職員は真剣です。

職員は親ごさんと何気ない会話を交
わし、その手助けや相談ごとに応えて
います。地域の笑顔を保やさないよ
う、一日も早く施設機能を発揮しなけ
ればと考える毎日です。

工夫で乗り越えたい



千田 栄

児童厚生員

新たな児童館の開
設に子どもたちは
「遊び場、宿題や読
書の場ができた」と

喜んでいました。震災前は地域の高齢者
らとゲートボールや季節の歳事などで
交流していました。スペースの関係から
行事やスポーツは制約がありますが、
工夫して子どもの自主性や主体性を
高めていければと思います。



児童館を利用する児童のみなさん

金石市社会福祉協議会 鷺住居児童館

施設は津波で流出しましたが、一時的
に場所を移して再開。昨年3月に鷺住居
小学校・釜石東中学校の仮設施設のオー
プンに合わせ、支援によるコンテナハウ
スで児童館を再開(平日9:45~18:45、土
曜8:00~18:45)しました。

釜石市鷺住居町3-12-1(紀州造林工場跡)
☎0193-28-2518



コンテナハウス

ニューライフ生命保険株式会社の思
いが重なり、再開することができま
した。支援によるコンテナハウス(1
階建て)は床面積が約149平方メ
(約45坪)。児童の放課後の憩いの場、
健全育成の場となっています。

なお、震災直後は市内上中島のN
TTの3階をお借りし、児童館活動
を再開(平成23年4月~24年3月、
登録児童は42名、職員は3名)して
います。

児童館機能を取り戻すために

鷺住居児童館の菊池久館長(施設
長は、市内8つの児童館(幼児保育
型、健全育成型、放課後児童クラブ
型)の館長を兼務しています。登録児
童と幼児数は合わせて315名(平
成24年8月)。職員は正規と臨時合
せて24名が対応しています。

児童館釜石ブロック幹事でもある
菊池館長は「全国の多くの皆さまの支
援と協力で、児童館を再開できまし
た。復興が進まず、悲しみが癒えない
方々もおりますが、働く親ごさんら
が安心できるよう、そして子どもたちが
新しい居場所で元気になるよう、一日
も早く児童館機能を取り戻す運営に
努めなければ」と力を込めます。

同館と鷺住居小学校仮設施設は、
窓から顔が見えるほどの近距離で
す。近くに田郷地区仮設住宅、その先
に栗林仮設住宅があります。子どもた
ちの元気な声が、地域と周りの方々に
元気にしてくれているようです。

社会福祉施設
総合損害補償

しせつの損害補償



ホームページでも内容を紹介しています
<http://www.fukushihoken.co.jp>

社会福祉施設のさまざまなリスクに対応するために！

プラン1 施設業務のための補償

(賠償責任保険、普通傷害保険、動産総合保険)

①基本補償

- 基本補償(A型)は、法人業務中、法律上の賠償責任が発生した場合、包括的に補償
- 見舞費用付補償(B型)は、賠償責任のない場合の見舞金が増加

- オプション1 訪問・相談等サービス補償
- オプション2 施設の医療事故補償

②個人情報漏えい対応補償

- 個人情報漏えいによる法律上の賠償責任を負った場合(おそれのある場合を含みます)に補償

③施設の什器・備品損害補償

- 施設内の什器・備品を幅広い範囲で補償
- 施設の現金等も補償

◆スケールメリットを活かし、充実した補償内容です。

加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営している社会福祉施設です。

プラン2 施設利用者のための補償

(普通傷害保険)

- ①入所型施設利用者の傷害事故補償
- ②通所型施設利用者の傷害事故補償
- ③施設送迎車搭乗中の傷害事故補償

プラン3 施設職員のための補償

(労働災害総合保険、普通傷害保険、約定履行費用保険)

- ①施設の労災上乗せ補償
- ②施設職員の傷害事故補償
- ③施設職員の感染症罹患事故補償

●この保険は全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約(「賠償責任保険」「普通傷害保険」「労働災害総合保険」「約定履行費用保険」「動産総合保険」)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記にお願いします。



社会福祉法人
全国社会福祉協議会
(引受幹事保険会社) 株式会社 損害保険ジャパン



株式会社 福祉保険サービス
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763